

第2章 圏域の概要

「利根川水系香取・銚子圏域」は、県の北西部に位置し、成田市（旧下総町区域）、香取市、旭市、銚子市および神崎町、東庄町の4市2町が関係している。圏域市町の総面積は544.83km²で県全体の約10.6%であり、平成13年の人口は約238,000人で県全体の約4.0%となっている。主産業は農業である。

圏域内の低地は、約1万年程前の縄文時代には太平洋の浅海であり、当時の生活の痕跡が貝塚として各所に残っている。それらの中には考古学上重要な遺跡が多くあり、香取市阿玉台貝塚では縄文時代中期前半の標式土器が出土している。飛鳥時代には、農耕文化の発展に伴い各地に有力な豪族があらわれ、当時の権威を象徴する古墳が香取市の香取神宮周辺などに多く分布している。鎌倉時代中期より、利根川沿川では河岸や渡船場が発達し、特に江戸幕府成立後、利根川の東遷、江戸川の開削事業に伴い利根川の舟運が発達してきた。圏域でも「佐原みなと」「小見川河岸」をはじめとした各河岸が発達し、これらの河岸を中心として現在の町が形成されている。とくに銚子市においては醤油と漁業の町として繁盛してきた。舟運の発達とともに街道の整備も進み、これが、江戸と房総諸国の結びつきを一層密にし、江戸文化や学者の往来を盛んにした。江戸時代後期には、関東の農村復興に貢献した代表的な人物、大原幽学が香取郡長部村（現旭市）の復興に尽力した。また、香取市の出身である伊能忠敬は、我が国最初の詳密地図とも言える「大日本沿海輿地全図」を作った偉大な測量家である。

圏域の地形は、標高40～50mの下総台地と標高1～4m程度の利根川沿いの沖積平野で形成されている。地質は主に砂・シルト・粘土層であり、下総台地の表面には風化火山灰層であるローム層が堆積している。

圏域の気候は海洋性気候区にある。平成元年から平成10年までの10年間の平均気温は銚子市では15.7℃、香取市では14.5℃、年降水量は銚子市では約1,700mm、香取市では約1,400mmとなっており、太平洋側にいくに従い温暖で多雨である傾向が見られる。

利根川下流部や圏域内の河川の一部は水郷筑波国定公園に指定されている。また、利根川の神崎大橋から水郷大橋までの河川敷と丘陵地が、県立大利根自然公園に指定されている。銚子市の猿田神社の森については県の郷土環境保全地域に指定されている。香取市の小野川周辺は、国指定重要伝統的建造物群保存地区であり、伊能忠敬の旧宅がある他、圏域内には大原幽学の旧宅、香取神宮本殿、龍正院仁王門などの国指定文化財や、神崎の大クス、良文貝塚などの国指定天然記念物をはじめとする数多くの文化財がある。

土地利用については、利根川沿川を通るJR成田線沿線に市街地が広がっており、低地は水田、台地部は畑と山林となっている。